

職員による自己評価

A 適切な支援の提供

プログラムは幅広い内容を段階的に実施している。集団で行なうプログラムでも個別に課題設定し、お子さんにあった内容を実践している。コロナ禍ではあるが、徐々に全体で行なう行事なども実施するようにしている。

分散で親子日を実施、また親子日がない時期も設定したことで、実際に療育を体感していただくことや保護者同士の情報交換の機会が減ってしまった。

B 保護者への説明責任

お子さんの様子や支援内容、当日の取り組み方など親子日を通じてやり取りをしているが、限られた時間の中での共有となってしまっている。情報伝達の手段としてはお知らせやマチコミ等を活用し提供した。勉強会などはオンライン視聴も試みた

C 非常時等の対応

月1回の避難訓練を実施した。大雨等の災害時の休園や避難方法について周知した。

D 関係機関との連携

夏季に併行先の機関の参観の機会を設けている。また移行に向けた引き継ぎを行っている

E 業務改善

利用者アンケートや園長懇談などで伺った意見を基に可能な範囲で改善を行っている。職員育成についてはZoomを活用し勉強会等の参加や課内研修等も行った。また行動計画を用いて計画的に実施している。

保護者による評価

A 適切な支援の提供

プログラムが固定化されないように工夫されているかの設問に対し14%（7名）のご家庭が「どちらともいえない」と回答、「季節の行事があれば」「集団で行なうことの難しさがある」などの意見を頂いている。

保護者同士の連携への支援について33%（17名）の方が「どちらでもない」「わからない」「いいえ」と回答している。

B 保護者への説明

日常の中での職員とのやり取りを通して子どもの状態や課題についての設問で7%（4名）のご家庭が「どちらともいえない」と回答している。情報発信の設問で9名（19%）の方が「どちらでもない」「わからない」と回答している。

C 非常時等の対応

災害時に備え必要な訓練についての設問ではほぼ100%のご家庭が「はい」と回答。防犯対策や災害時の危険箇所等の対応についてご意見をいただいた。

D 満足度

90%のご家庭が「満足」と回答をいただいている。医師や専門職種とのかかわりが欲しいとのご意見が聞かれた。

事業所内での分析

【共通点】

- 関係職種と利用児の目標や課題などを確認し、保護者と日々の療育時間や個別支援計画書で確認、共有する事で同じ方向での支援につながっている。
- コロナ禍でも少しずつ全体行事を取り入れ療育との連動を図るなど、見せ方や伝え方を工夫したプログラムの実施に取り組んでいる。

【相違点】

- クラスを分散しての親子日を設けていることもあり、親の会の活動等、保護者同士の情報交換する機会や情報発信が少なく保護者にはわかりにくかった。
- 非常災害時に備え、避難訓練の実施だけでなく、マニュアルでの伝達に加え、防犯対策や災害時の危険箇所への対応など周知と整備について必要だった。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

#### ○多職種や他機関と連携を図り、ひとり一人のお子さんに適した支援を実施している。

多職種とカンファレンスや日々の振り返りを定期的に行い、多角的な視点を取り入れ日々の療育を実施している。日々の療育は児童発達支援管理責任者や関係スタッフが担任と連携し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムを提供している。

#### ○保護者支援の充実に努めている。

お子さんの様子や支援内容、日常の困り事等を親子通園日、個別面談、電話相談、連絡ノート等で共有や相談を行っている。

#### ○他機関との連携に努めている。

就学時の引継ぎ、併用している関係機関と参観や電話相談等で連携を図っている。

### 事業所の改善点

○保護者同士が情報交換できる機会の設定や災害時の対応などの情報発信の方法に工夫が必要である。

○コロナ禍で少なくなっていた療育場面での実践や面談などでお子さんに適した支援内容について、保護者への説明をさらに充実していく必要がある。

### 事業所の改善への取り組み

- ◆クラスの保護者が集まる場を定期的に設け、交流や情報交換が出来るような機会を設けます。
- ◆保護者への情報発信につとめ、「利用者ハンドブック」にわかりやすく記載する事と合わせて丁寧な説明を保護者連絡会等活用し実施します。また、マチコミや季節のたより等でタイムリーな情報提供につとめます。
- ◆療育プログラムについては内容や展開の仕方を検討し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムの提供と、季節感のある内容を意識した全体の行事を実施します。また、保護者の療育ニーズを的確に捉え、一人ひとりに合わせた支援内容や方向性等についてより丁寧な説明を行い、共有に努めます。
- ◆引き続き、お子さんやご家族への支援の向上をめざし、職員育成に努めます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度もコロナ禍ではありましたが少しずつ「できる形」での通園運営を行ないながらの1年となりました。利用されているご家庭には様々な面でご理解、ご協力を頂き本当に感謝しております。今回の保護者アンケート調査や自己評価を行う中で、保護者支援や情報発信の点ではまだまだ改善の必要性を感じる箇所がありました。また、私たちが行っている支援内容については、引き続き保護者の方と様々なやり取りをさせて頂く機会を持ちながら満足度向上に向けて一緒に療育を進めていけたらと考えております。今後もお子さんおよびご家庭への支援の充実に努め、職員一同努力してまいります。

職員による自己評価

A 適切な支援の提供

プログラムは毎月、計画を立て幅広い内容を段階的に実施している。季節感や展開を考えバランス良く組み立てている。

分散で親子日を実施、また親子日がない時期も設定したことで、実際に療育を体感していただくことや保護者同士の情報交換の機会が減ってしまった。

B 保護者への説明責任

個別支援計画については定期的な面談や勉強会、親子日の中でお子さんの様子や支援内容、当日の取り組み方など密にやり取りをしている。情報伝達の手段として必要な情報はお知らせやマチコミを活用し提供した。

C 非常時等の対応

マニュアル等については全体周知に加え、クラス単位でも補足説明を実施した。

D 関係機関との連携

夏季に関係機関の参観の機会を設けている。また、情報共有のためのカンファを実施した。

E 業務改善

利用者アンケートや園長懇談などで伺った意見を基に可能な範囲で改善を図っている。職員育成については Zoom を活用し勉強会等の参加や課内研修等も行った。また行動計画を用いて計画的に実施している。

保護者による評価

A 適切な支援の提供

個別支援計画に沿った支援が行われているかの設問に対しほぼ90%のご家庭が「はい」と回答している。プログラムが固定化されないように工夫されているかの設問に対し5名(46%)の方が「どちらともいえない」「わからない」と回答している。

保護者同士の連携への支援について7名(54%)の方が「どちらでもない」「わからない」と回答している。

B 保護者への説明

個別支援計画の説明での設問に対し100%のご家庭が「はい」と回答している。

情報発信の設問で5名(38%)の方が「どちらでもない」「わからない」と回答している。

C 非常時等の対応

マニュアル関係の周知・説明、非常災害時に備え必要な訓練についての設問では76%のご家庭が「はい」と回答。マニュアル等の説明については3名(23%)の方が「わからない」「どちらともいえない」と回答している。

D 満足度

90%のご家庭が「満足」と回答している。

事業所内での分析

【共通点】

- 関係職種と利用児の目標や課題などを確認し、保護者と日々の療育時間や個別支援計画書で確認、共有する事で同じ方向での支援につながっている。
- マニュアルを通じて保護者への説明・情報提供を行ない、緊急時の備えや訓練について周知徹底している。

【相違点】

- クラスを分散しての親子日を設けていることもあり、親の会の活動等、保護者同士の情報交換する機会や情報発信が少なく保護者にはわかりにくかった。
- 毎月計画立てて実施しているプログラムについて、課題設定や繰り返しの必要性等の説明する機会が少なく、保護者にはわかりにくかった。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

○多職種や他機関と連携を図り、ひとり一人のお子さんに適した支援を実施している。

多職種とカファルスや日々の振り返りを定期的に行い、多角的な視点を取り入れ日々の療育を実施している。日々の療育は児童発達支援管理責任者や関係スタッフが担任と連携し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムを提供している。

○保護者支援の充実に努めている。

お子さんの様子や支援内容、日常の困り事等を親子通園日、個別面談、電話相談、連絡ノート等で共有や相談を行っている。

○他機関との連携に努めている。

就学時の引継ぎ、他機関のサービスを併用するケースの情報共有を図るため、関係機関と連携している。医療ケアの必要なお子さんは医療主治医と緊急時の対応等の確認を行っている。

### 事業所の改善点

○保護者同士が情報交換できる機会の設定や情報発信の方法に工夫が必要である。

○プログラムや支援の内容について、さらに説明の機会を増やしたり工夫をする必要がある。

### 事業所の改善への取り組み

- ◆クラスの保護者が集まる場を定期的に設け、情報交換が出来るような機会を設けます。
- ◆保護者への情報発信につとめ、「利用者ハンドブック」にわかりやすく記載する事と合わせて丁寧な説明を保護者連絡会等活用し実施します。また、マチコミや季節のたより等でタイムリーな情報提供につとめます。
- ◆新型コロナウイルスの感染対策はもうしばらく続く為、引き続きプログラムについては内容や展開の仕方を検討し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムの提供を行います。また、保護者の療育ニーズを的確に捉え、療育内容や方向性等をより丁寧な説明を行い、共有に努めます。
- ◆引き続き、お子さんやご家族への支援の向上をめざし、職員育成に努めます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度もコロナ禍ではありましたが少しずつ「できる形」での通園運営を行ないながらの1年となりました。利用されているご家庭には様々な面でご理解、ご協力を頂き本当に感謝しております。今回の保護者アンケート調査や自己評価を行う中で、保護者支援や情報発信の点ではまだまだ改善の必要性を感じる箇所がありました。また、私たちが行っている支援内容については、引き続き保護者の方と様々にやり取りをさせて頂く機会を持ちながら満足度向上に向けて一緒に療育を進めていけたらと考えております。今後もお子さんおよびご家庭への支援の充実に努め、職員一同努力してまいります。

事業所名 横浜市戸塚地域療育センター 医療型児童発達支援

担当者 園長 荻野 かおり

職員による自己評価

**A 「適切な支援の提供」について**

これまでに引き続き、担任および児童発達支援管理責任者、心理等多職種と連携し、お子さんひとり一人に対して多面的な評価を実施し、カンファレンスや日々の振り返りを通じて、お子さんに合わせたプログラムと支援方法を検討・実施しています。コロナ禍での制限緩和に合わせて、少しずつプログラムのバリエーションを増やしています。また、横浜ラポールの体育指導員からの助言を受け、運動プログラムの展開やサポート方法についても改善してきています。

**B 「保護者への説明等」について**

引き続きコロナ禍での対策をとりながらも、少人数での参観、定期的なクラス懇談を設定し、保護者同士の交流にも努めました。また、保護者教室の実施方法に工夫をし、動画配信を行ったり、ご家族で参加できる土曜日に zoom を活用したりしました。

**C 「関係機関との連携」について**

園の先生方向けの療育参観週間では、感染増の時期ではありましたが、丁寧な感染対策を行いながら、多くの園からご参加いただきました。また、園での不応答のご相談があった際には、保護者の方を通じて園とやりとりの上、訪問支援も行いました。

**E 「非常時等の対応」について**

障害特性に合わせて事前の配慮を行い、避難訓練を継続して実施しています（紙芝居の作成や、感覚過敏に配慮）。早い時期に実施し、安全配慮に努めました。また、コロナ感染対策として、常日頃からの消毒・換気に努めています。

保護者による評価

**A 「適切な支援の提供」について**

「客観的分析の上で個別支援計画書に沿った支援が行われているか」について、9割以上の方に満足と回答していただきました。一部全担当者からの引継ぎにご心配をおかけしてしまいましたが、概ねご満足いただけているようです。“プログラムが固定化しないように工夫されているか”といった設問については、特性に合わせて様々なプログラムで楽しめているという回答もいただきました。

**B 「保護者への説明等」について**

個別支援計画書については、全員の方に満足との回答いただきました。個別面談等のご相談についても、9割以上の方に満足と回答いただき“しっかり時間をとってもらえている”とご回答いただきました一方で、“時間が短い”“昨年度の説明について不十分”とのご意見がありました。また、“親の会の活動や交流への支援”については、6割の方が満足と回答されていましたが、交流が少ないというご意見もいただきました。

**C 「非常時の対応」について**

“必要な訓練はされている”と全員に回答をいただきました。健康チェック票についても、定期的に変えることで気を付けようという気持ちになるとのご意見もいただきました。

**D 「満足度」について**

9割以上の方に“満足”とご回答くださり、心強いと記述いただきました。園の行事行きたがるため振り替えできるとありがたいとのご意見もありました。

事業所内での分析

**【共通点】**

- お子さんに合わせたプログラムができており、親子での登園を楽しみにしていただき、保護者が支援サービスについて概ねご満足いただけているようです。
- 保護者支援について、コロナ禍で十分にできていない点について工夫を重ね、概ねご理解いただけているようでした。

分析・検討してみても…

### 事業所の強み

○一人ひとりのお子さんのアセスメントに基づいた支援を実施している。

- ・担任および児童発達支援管理責任者、心理職や作業療法士等の多職種と連携し、多面的なアセスメントを実施している。
- ・カンファランスや日々の振り返りを通じて、集団場面においても、お子さんに合わせた個別性の高いプログラムと支援方法を実施している。

○保護者支援の実施方法について、工夫することができている。

- ・昨年度に比べ、感染対策をとりつつも、参観日やクラス懇談日の定期的な実施、VTR 視聴や動画配信、zoom を利用した土曜日の保護者教室など、お子さんの様子や特性、対応方法についての共有ができる工夫をしている。

### 事業所の改善点

○感染対策をしながらも、工夫によりプログラムが実施できるように努めます。

- ・こども同士のやりとりや保護者教室の実施、保護者同士が話すことのできる機会を保障できるように努めます。
- ・幼稚園・保育園との連携については、療育参観や訪問支援の柔軟な実施に努めます。

○保護者の方への丁寧な説明に努めます。また、個別のご相談時間の確保に努めます。

○支援の向上をめざし、職員の育成に努めます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、皆様のご理解・ご協力のもと、必要な支援プログラムを提供できるよう、計画的に実施してまいりました。感染対策や分散での参観などにもご協力くださり、またアンケート結果からは、皆様にご理解くださっていたこと、十分丁寧に支援していただいているなどのお声をいただき、嬉しい気持ちでいっぱいです。心より感謝申し上げます。

保護者支援については、公平さを保ちつつ、より個別的なサポートができるように改善に努めてまいります。

事業所名 横浜市戸塚地域療育センターピーす東戸塚

担当者 中村 泉